

畜産 FAX 情報 第 3 号

令和 6 年 6 月 15 日

発行：ゆとりみらい 21 農業推進協議会指導部会

本年の牧草は、順調に生育しています。チモシー主体の草地は出穂始め～出穂期が収穫適期です。地域全体としては「出穂始め：6月7日～出穂期：6月15日」と平年並です。既に収穫作業が始まっておりますが、良質な粗飼料確保のため、生育状況に応じた収穫作業を行いましょう。

1. 細断サイレージ調整上の注意点

天候により原料草が乾きすぎた場合や刈り遅れてしまった場合は、踏圧がかかりにくくなります。通常時は切断長 10mm 程度ですが、切断長を短め（8mm～10mm の範囲）に調節しましょう。

また、原料草は薄く広げ、入念な踏圧を心がけましょう。

2. 条件に合わせた添加剤の活用

- (1) 乳酸菌：乳酸菌が働きやすい環境を整えるため、原料草は予乾して水分 70%前後に調節しましょう。
- (2) ギ酸：天候が優れず収穫せざるを得ない場合など、原料草の水分が 75%以上の場合は、ギ酸を選択し pH を下げ、不良発酵を抑制させることを推奨します。原料草を搾汁し、pH 試験紙や pH メーターで pH 4.0 以下を確認し、添加量を調整しましょう。

3. 1 番草の収穫後の追肥について

施肥配分は、年間 2 回利用で「早春：1 番草収穫後＝2：1」、3 回利用では「早春：1 番草収穫後：2 番草収穫後＝3：2：1」です。

2 回利用・3 回利用共に、1 番草収穫後の追肥（マメ科率 5～15%）は、窒素で約 3.3 kg/10a 必要です。硫安の場合は約 15.7 kg/10a、スラリーの場合は約 1.6 t/10a（現物）程度に相当します。

収穫期は農作業事故が発生しやすい季節です。
特にサイロでのタイヤ乗せは足場が不安定な高所作業です。
ヘルメットを着用するなど、
農作業事故には十分に気をつけてください！